

今週のメニュー

[トピックス](#)

樹脂サッシ普及促進委員会ホームページ(Jmado HP)の一新を終えて

樹脂サッシ普及促進委員会委員長 今村 信和

[随想](#)

古代ヤマトの遠景(39) - 【三角縁神獣鏡】(2) -

信越化学工業(株) 木下 清隆

[編集後記](#)

トピックス

樹脂サッシ普及促進委員会ホームページ(Jmado HP)の一新を終えて

樹脂サッシ普及促進委員会委員長 今村 信和

8月3日より、JmadoのHP (<http://www.jmado.jp>) を一新しました。

地球温暖化問題やエネルギーの高騰など社会環境も大きく変わり、住宅の断熱性や快適性が必要とされるようになってきています。なかでも窓の重要性を感じていただくための情報発信、特に女性向けに発信することが良いのではとの考えに基づき、下記の点を盛り込みHPを全面改訂しました。

是非ご覧頂き、どうぞご活用下さい。また、ご批判をお待ちしています。

「樹脂サッシ」の名称を「樹脂窓」へ変更

樹脂(塩ビ)サッシとLOW-Eガラスの組み合わせの「窓」は、省エネ建材等級制度で最高位の4つ星を獲得しています。「窓」の性能が問われる時代に相応しい名称へ変更し、「窓」の性能に差異があることを広く生活者へお知らせします。

最新の情報を一覧表示

樹脂窓に関連する最新の情報を常にトップページに一覧表示することで、生活者の新たな動きを応援します。

「窓」と「二重窓」に区分

新規住宅着工は、逡減して行く見通しですが4600万戸の既築住宅のエコ改修は「二重



Jmado HP トップページ

窓」が有効で、断熱、防音・遮音などの性能を向上させ、しかも、施工が簡単なのが特徴です。生活者の改修検討の一助となるよう、区分して表示しました。

メーカー各社とのリンク判り易く

樹脂窓メーカーとのリンクを各ページに表示し、生活者が具体的な商品説明に簡単に入り、メーカーとの距離が近づくよう工夫しました。

「テーマ」別に詳細内容を表示

「東京大学での窓リフォームレポート」,「窓に関わる減税制度・補助金ガイド」,「日本と海外の窓断熱規制」の情報を纏めて、判り易く表示し、生活者の理解が深まるよう、樹脂窓を取り巻く興味深い情報を特集しました。

「樹脂窓」をご存じない方々へのお誘い

月毎に違うプレゼントを抽選でお渡ししたり、「窓とインテリアの素敵な関係」を提案することで、樹脂窓をご存知ない方々をHPにお誘いして、樹脂窓をご理解頂く生活者の増加を願っています。

メディアの方々への記事を集録

東京大学・小宮山前総長へのインタビュー記事などメディアの皆様への記事を集録して、一層深いご理解を目指しています。

今後とも、当委員会が進める地域協議会とのリンクなどを推進し、窓の具体的なエコ改修取組状況をお知らせする等、生活者の皆さんへ樹脂窓を取り巻く情勢の正確且つ早期提供を図る為、HPの充実に努力してまいりますので、ご支援方、宜しくお願い申し上げます。(了)

随想

古代ヤマトの遠景(39) - 【三角縁神獸鏡】(2) -

信越化学工業(株) 木下 清隆

前回、我が国における三角縁神獸鏡解明問題は、大きな混乱に陥ったことを述べたが、その後、銅鏡に紐を通す孔、すなわち紐孔ちゅうこうの形状の違いや、微妙なデザイン上の相違、神獸デザインの変遷等を手がかりにそのルーツを探る研究が続けられている。これらの研究により、王氏の「呉人渡来製作説」とでも名づけられる新説は徐々に克服されつつあるといえるが、それでも我国の専門家の意見は大きく分かれており、その主張をまとめると、おおよそ次のようになる。

- A. 発掘された三角縁神獸鏡には形式上の連続性があることから、これらは全て倭国で生産されたと考えられる。(この場合、工人は倭人)
- B. 初めは中国で生産されたものが我国へ導入されたが、その後、倭人によって国産された。
- C. 中国呉の工人が倭国に渡来し、倭国内で全て生産した。(王氏の主張)

このような見解の何れが専門家間の大勢になりつつあるのかは分からないが、ここでは明治期以降、多くの学者たちによって支持されてきたとみられるB案の立場で以下の話を進めることにする。

我国で現在発掘されている三角縁神獸鏡は、既に520面を超えており、更に増加し続けている状況にある。従って、三角縁神獸鏡が卑弥呼に下賜された鏡だとすれば、100枚を超えた分は、どのようにして調達されたのかが問題として出てくる。B案はこのような問題を解決するために、自然に生まれてきた考え方とも云えよう。

我国における古鏡の研究は明治に入ってから本格化するが、多くの古鏡が中国からもたらされたものであると認識されていたことから、これらは「舶載鏡」と名づけられた。従って、三角縁神獸鏡につ

いても、当初はごく自然に舶載鏡とされたが、品質上の問題、更には数量上の問題が出てくると、必然的に国内生産鏡の考え方が生まれ、このような鏡に対しては「倣製鏡」と名づけられた。



重要文化財 だりゅうきょう 豊龍鏡

これまでに発掘された古鏡は三角縁神獸鏡を含め5,000面を超えており、未発掘分まで入れると相当数の銅鏡が我国には存在していることになる。これほど大量の鏡を卑弥呼或いは後継倭王は、一体何に使ったのかが問題として出てくる。

現代においては、舶来品という言葉もすっかり色褪せたといえるが、古代においては、中国鏡に対する倭国の首長達の憧れが、並みの物ではなかったと想定されるだけに、これら舶来品の持つ効果は絶大であったと考えられる。その憧れの対象である中国鏡を倭国連合の女王卑弥呼は手中に収めた。その中核をなしたのが三角縁神獸鏡であったことになる。なお、このような鏡を持つ者は、その威信保持に大いに役立つとして、これらは「威信財」と名づけられている。

この威信財を卑弥呼は有効に活用したというのが現在の学説である。以下の文章は現在、国立博物館の古代史コーナーに掲示されている「三角縁神獸鏡」に関する説明文である。

古墳に副葬された三角縁神獸鏡という特殊な鏡は、中国三国時代の魏(220~265)から、畿内に成立したヤマト政権にもたらされ、倭王が各地の有力首長に下賜したものと考えられています。鏡の分布から、三角縁神獸鏡は国家形成期の畿内に運ばれ、続いて地方との政治的関係の成立をしめす有力な宝器として利用されたのです。現在、邪馬台国の女王卑弥呼が魏に朝貢した年の景初三年(239)と翌年の正始元年の銘のあるものをはじめ500面近く発見されています。

この説明文は先のB案の立場で書かれているが、ここには明確に「威信財」としての三角縁神獸鏡を「倭王が各地の有力首長に下賜した」と説明されている。すなわちヤマトに君臨する王として、臣下とも云うべき各地の有力首長に三角縁神獸鏡を下賜した。何のために？ここでは「地方との政治的関係の成立」のためと説明されているが、早く言えば、首長達の協力を取り付けるため、或いは関心を買うために用いられたことを意味している。要するに三角縁神獸鏡は一種の「工作材」としての機能を果たしていたことになる。そして、ここにはヤマトの王権は、強大な権力を有していたとの認識が根底にあることになる。

(つづく)

前回の「古代ヤマトの遠景」(38)【三角縁神獸鏡】(1)は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/235/mag_235.pdf

編集後記

衆議院選挙は各新聞社の予想通り、民主党の圧勝に終わりました。民主党のマニフェストはばら撒きではないかとの批判なども有りましたが、民主党政権誕生後にその諸政策を実行(法制化)に移す上での各政党間・国会での議論が始まります。地球温暖化対応では、民主党マニフェスト案は現政権より更に踏み込んで、1990年比で25%削減という目標が設定されております。産業界としては厳しい数値目標となりますね。地球温暖化については種々議論がある中で、科学的な知見・論拠に基づいて決定して欲しいものです。逆に、化学産業は地球温暖化対策に積極的に取り組んでいること、塩ビ製品は環境にやさしい省資源・循環型素材であること、塩ビ樹脂サッシは断熱効果に優れていることなどを改めてアピールして行く良い機会なのかもしれません。(薩弘)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
